

送配電部門における経営効率化の取組

～託送収支の事後評価のフォロー～

2018年11月30日
北陸電力株式会社

目 次

- 1. 公表主旨 … P 2
- 2. 効率化事例への取組状況 … P 3～
- 3. 新たな効率化取組について … P 9～
- 【参考】2016年度事後評価での当社取組状況 … P 12～

1. 公表主旨

- 現在、電力系統を取り巻く事業環境は、中長期的な人口減少や省エネルギーの進展等により電力需要が伸び悩む一方で、再生可能エネルギーの導入拡大による系統連系ニーズの増加、経済成長に応じて整備されてきた送配電設備の高経年化への対応が増大するなど大きく変化しつつあります。
- こうした事業環境の変化に対応し、今後も安定供給を確保しながら、託送料金の上昇を抑制するためには、経営効率化等の取組によりできるだけ費用を抑制していくとともに、再生可能エネルギーの導入拡大や送配電設備の高経年化への対応に向けて、計画的かつ効率的に設備投資を行っていく必要があります。
- 以上のような問題意識の下、託送料金の低廉化と質の高い電力供給の両立の実現を目指し、昨年度、電力・ガス取引監視等委員会料金審査専門会合において、託送収支の事後評価（以下、事後評価という。）が実施され、122項目の効率化に資する代表的な取組が一般送配電事業者に共有されました。
- 当社は、更なる効率化に向けて、共有された効率化事例についての当社の取組状況を公表いたします。

2. 効率化事例への取組状況【昨年度事後評価振り返り】

- 昨年度の事後評価において、当社は、効率化事例112項目（当社分10項目除き）に対する取組状況を下表のとおり提示しました。
- 今回は、昨年度「他社と同様と思われる取組を実施（△：16項目）」、「取組を未実施・情報不足で判断不可・別の取組を実施等（×：10項目）」と評価した項目を中心に、当社の取組状況を次ページ以降にまとめております。
- なお、昨年度「他社と同様の取組を実施（○：83項目）」と評価した項目については、取組を継続しております。

項目		事例数 (北陸別掲)	昨年度の事後評価における 当社取組状況				
			○	△	×	－	
体制	①効率化のための体制	12 (1)	12				
人件費・委託費等	②人件費の削減等	12 (1)	12				
設備関連費	調達の合理化	③発注方法の効率化	16 (1)	14	2		
		④仕様・設計の汎用化・標準化	14 (1)	9	4	1	
	工事内容の見直し	⑤新材料・新工法の利用	18 (2)	8	5	3	2
		⑥系統構成設備の効率化	10 (1)	7		2	1
	設備保全の効率化	⑦点検周期の延伸化等の効率化	13 (2)	9	3	1	
		⑧取替時期の延伸等の効率化	14 (1)	9	2	3	
その他	⑨その他の効率化	3	3				
合 計		112 (10)	83	16	10	3	

(凡例) ○：他社と同様の取組を自社も実施、△：他社と同様と思われる取組を自社も実施、
×：取組を実施していない・情報不足で判断できない・別の取組を実施等、－：対象設備はない

効率化事例を確認・検討

【昨年度の△・×項目の取組状況の確認①】（既に実施済みの項目）

- 昨年度に「△」・「×」と評価した項目について、他社からその取組内容の聞き取りを行った結果、以下の17項目※については、同様の取組を実施していること（評価「○」相当）を確認しました。

【既に実施済みの項目】

※昨年度は、他社効率化事例の概略のみを根拠に評価したため、「△」・「×」と評価

No	事業者	項目	昨年度の 評価
1	東京	地中送電ケーブル工事分野における発注方法の工夫	△
2	東京	配電用設備品分野での発注方法見直し	△
3	北海道	新たな高圧線用カバーの仕様見直し	△
4	東京	配電用柱上変圧器の仕様見直しによる低減	△
5	九州	塗料仕様の標準化（送電設備）	△
6	東北	クランプカバーの形状改良	△
7	関西	変圧器における機器構造の簡素化や仕様等の見直しによる製造原価低減	△
8	中国	無停電作業による鉄塔塗装の実施	×
9	中国	安価な鳥害防止具の導入	△

No	事業者	項目	昨年度の 評価
10	九州	アーム補強金物の開発（配電設備）	△
11	北海道	275kV連絡用変圧器の電圧調整スイッチ（LTC）の点検周期見直し	△
12	東京	電圧調整スイッチ（LTC）吊り上げ点検のインターバル延伸	△
13	中国	変圧器タップ切替装置の細密点検周期の延伸化	×
14	沖縄	変圧器タップ切替開閉器における点検周期延伸化	△
15	中部	保護継電装置におけるユニット交換工法の採用	△
16	四国	超高圧母線保護リレー装置の部品単位での交換によるコスト低減	△
17	九州	変圧器の更新時期の延伸	×

【昨年度の△・×項目の取組状況の確認②】（採用決定・検討中の項目）

- 昨年度に「△」・「×」と評価した項目のうち、以下の6項目については、採用可否の検討を進め、一部の項目において採用を決定しております。
- 効率化が見込める項目は、積極的に採用し、コスト低減に努めてまいります。

【採用決定の項目】

No	事業者	項目	昨年度の 評価	現在の取組状況
18	九州	ケーブル張替工法の見直し（送電設備）	×	ケーブル張替工事（2020年度施工予定）への採用を決定済み。 詳細P7
19	沖縄	ケーブル接続箇所数の低減	×	ケーブル張替工事（2020年度施工予定）への採用を決定済み。 詳細P7

【検討中の項目】

No	事業者	項目	昨年度の 評価	現在の取組状況
20	関西	2本継コンクリート柱への仕様変更	×	2本継コンクリート柱の導入により、施工困難箇所(狭隘箇所など)への適用による作業の省力化(運搬・建柱作業など)が見込めることから、2020年度の導入に向けて検討中。 (狭隘地区において2本継柱の試行導入実績約20本有り) 詳細P8
21	東京	ダイナミックレイティング活用による設備増強の回避	×	ダイナミックレイティングについて、情報収集（設備見学等）を実施。 当社管内での適用可否について、検討予定。
22	北海道	耐塩コンクリート柱の採用	×	耐塩コンクリート柱の詳細内容を確認し、北陸地域における適用条件・範囲・費用対効果を踏まえ、導入可否を検討中。 (塩害地域に施設する機器や金物は、耐塩対策を実施済みであるが、コンクリート柱内部の鉄筋は、予めコンクリートで覆われていることから、現時点で耐塩対策不要との認識)
23	九州	コンクリート柱のひび割れや剥離等の現地補修	×	コンクリート柱の現地補修の詳細内容を確認し、当社設備における適用条件・範囲・費用対効果を踏まえ、導入可否を検討中。 (過去に別条件(鉄筋露出までは至らないコンクリート剥離状態)での現地補修を検証し、要求強度を満足することを確認)

【昨年度の△・×項目の取組状況の確認③】（適用可能な工事が無い項目）

- 昨年度に「△」・「×」と評価した項目について、他社からその取組内容の聞き取りを行った結果、以下の3項目※については、現時点で当社に適用可能な工事はありませんでした。
- 今後、適用できる工事があれば、費用対効果等を踏まえて採用を判断し、コスト低減に努めてまいります。

※昨年度は、他社効率化事例の概略のみを根拠に評価したため、「△」・「×」と評価

【適用可能な工事が無い項目】

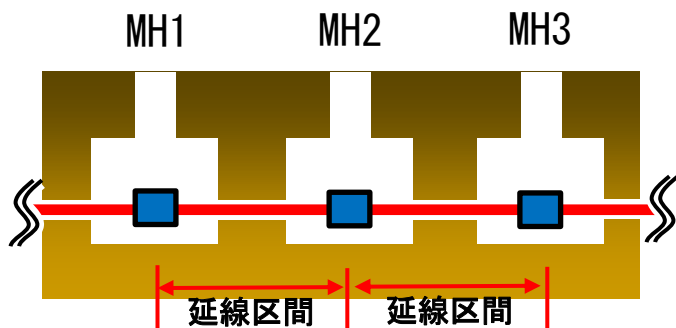
No	事業者	項目	昨年度の 評価	確認結果
24	東京	超狭根開き鉄塔の開発	△	超狭根開き鉄塔について、敷地に制限のある箇所において採用を見込めるため、候補地があれば費用対効果を踏まえて、採用可否を判断する。 ただし、現時点で、超狭根開き鉄塔を適用可能な工事なし。
25	北海道	変圧器の構内移動工法（油圧式移動装置）の採用	△	構内移動工法について、適用の可能性がある工事があれば、従来工法との費用対効果を踏まえて、採用可否を判断する。 ただし、現時点で、この構内移動工法を適用可能な工事なし。
26	四国	架空送電線の電線張替工事における新工法（部分的な吊金車延線工法）の採用	×	部分的な吊金車延線工法について、地形等の施工条件の合う工事があれば、従来工法との費用対効果を踏まえて、採用可否を判断する。 ただし、現時点で、部分的な吊金車延線工法を適用可能な工事なし。

【ケーブル張替工法の見直し検討】

- 既設管路を使用する場合など、これまでも中間マンホール箇所において詳細設計により接続箇所数の削減を図ってきましたが、張替用機材を使用し、ケーブルを引き通すことによって、長尺布設を可能とし、更なる接続箇所数の削減に取り組んでおります。（2020年度施工予定）

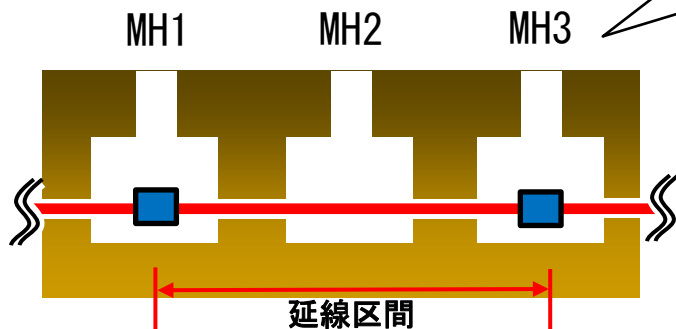
削減前（現状）

接続箇所数 3箇所

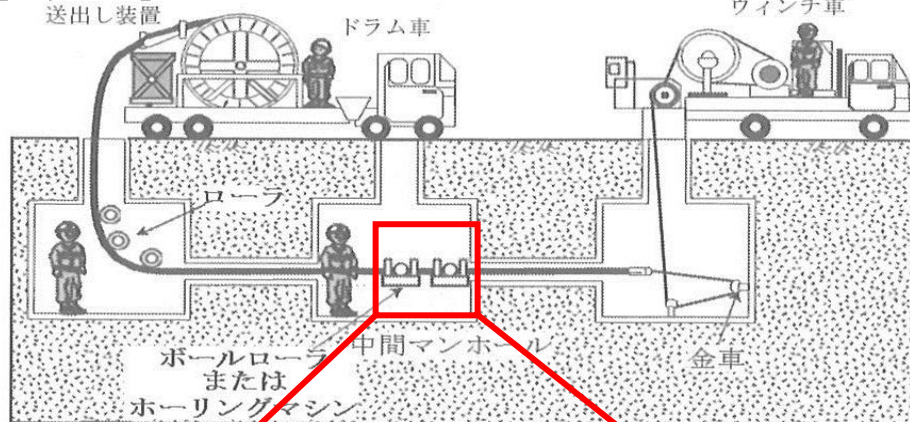


削減後

接続箇所数 2箇所



【延線方法】



電気協同研究 第73巻第2号
P120から転載

【張替用機材】



【取組事例②】 No20. 「2本継コンクリート柱への仕様変更」

【2本継コンクリート柱導入に向けた検討】

- 狭隘な箇所等において、従来の1本柱では施工困難となる場合があります。
- 2本継コンクリート柱の導入により、狭隘箇所等での電柱運搬・建柱作業が容易となり、作業の省力化を見込んでおります。
- 現在、試行的に施工した2本継コンクリート柱の作業性や適用範囲を踏まえ、2020年度の本採用に向けた検討をしております。

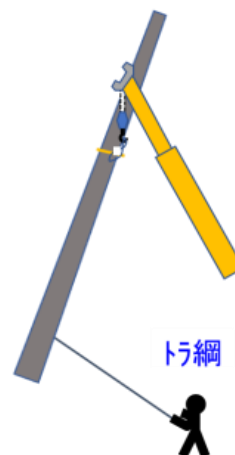
<参考> 2本継コンクリート柱の施工風景

施設制約箇所での建柱工事例



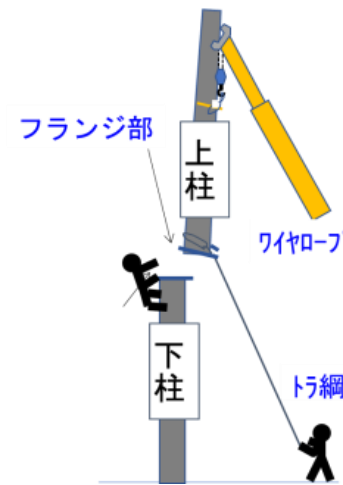
<参考> 電柱建柱作業比較

【従来1本柱工事】



・電柱が長い為、建柱時に電柱を大きく傾斜する必要があり、狭隘箇所での作業性は悪い。

【2本継コンクリート柱工事】

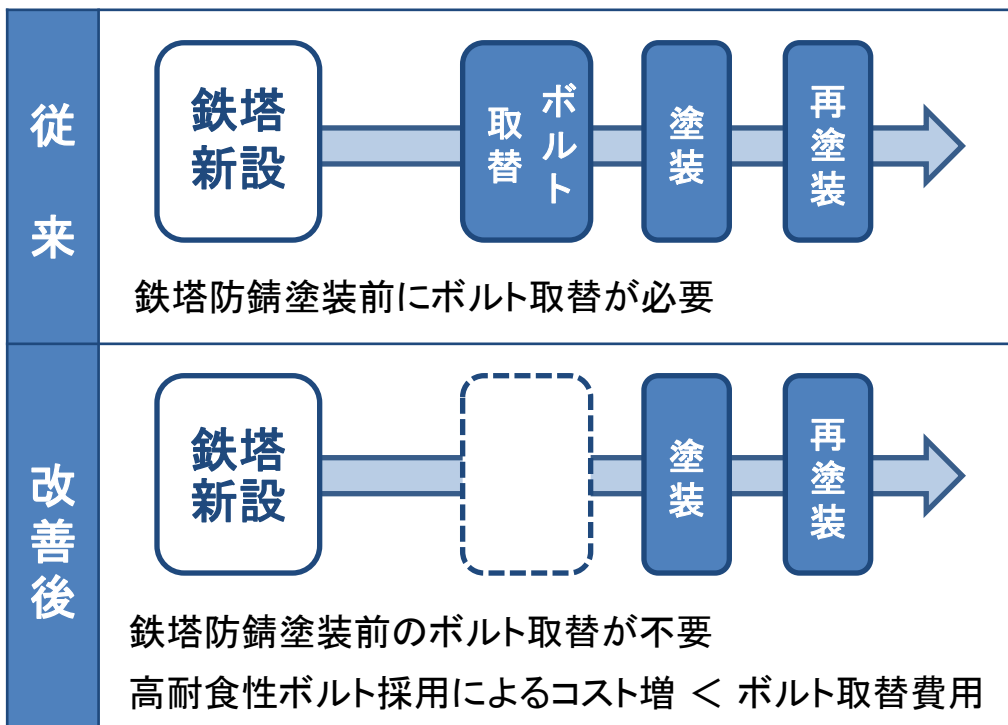


・電柱が短くなるため、建柱時に電柱をほぼ垂直に施工することが可能となり狭隘箇所での作業性は良い。

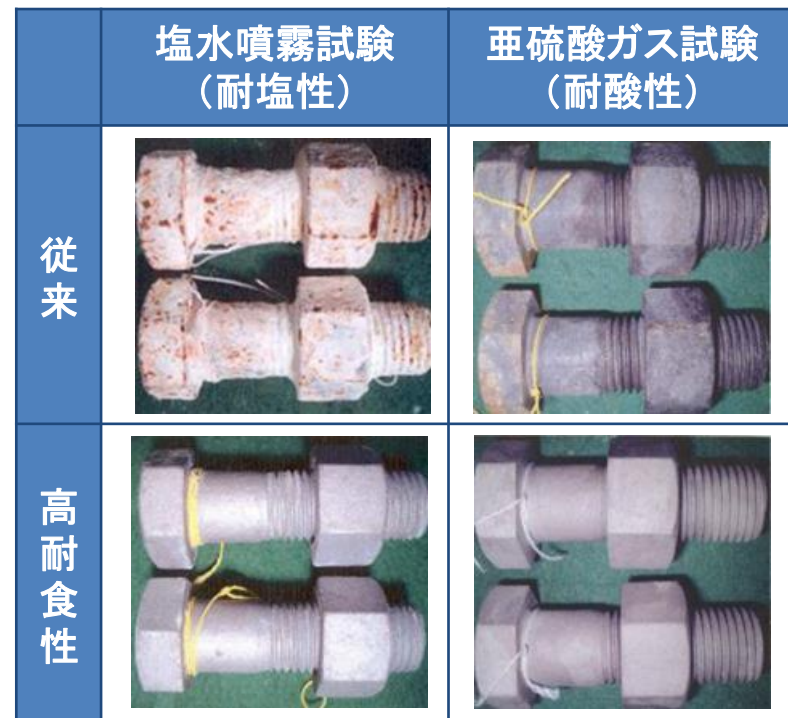
3. 新たな効率化取組について（高耐食性ボルトの採用）

- 鉄塔部材(鉄骨・ボルトナット)は、腐食対策のため新設時に「溶融亜鉛めっき」を施しております。
- ボルトナットは、鉄骨に比べて、めっき層が薄く、腐食が進行しやすいため、鉄塔防錆塗装前にボルト取替が必要でした。
- 新たに「溶融亜鉛めっき」に加え、「高耐食性防錆処理」を施したボルトナットを採用することで、鉄塔防錆塗装前のボルト取替が不要となり、施工管理業務や保守費用の低減を図っております。

<鉄塔新設から鉄塔防錆塗装までのフロー図>



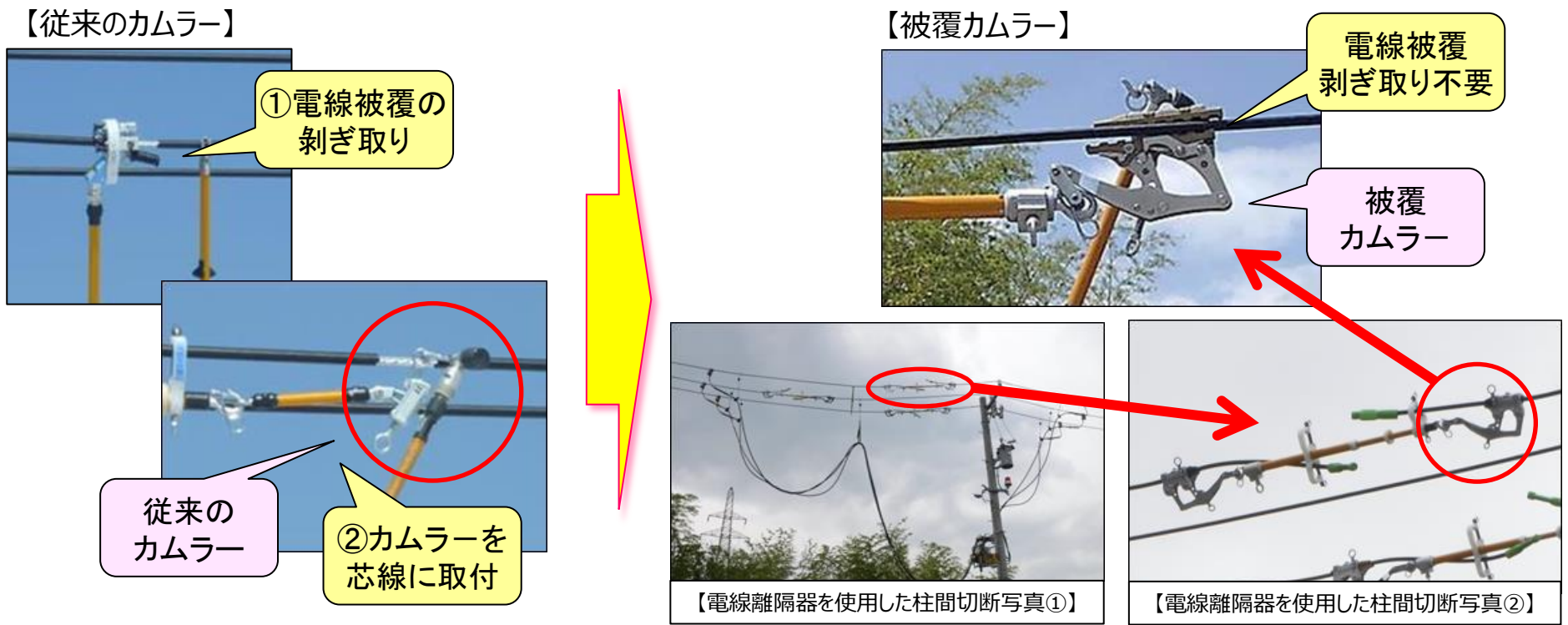
<耐食性確認試験>



3. 新たな効率化取組について（電線離隔器の被覆カムラーの導入）

- 電線離隔器を使用する柱間切断・接続工事※においては、電線の絶縁被覆を剥ぎ取り、電線の芯線に直接「カムラー」を取り付けして、電線を把持しておりました。
- 電線把持部の形状を改良した「電線離隔器用被覆カムラー」の開発により、電線被覆の剥ぎ取り作業が不要となり、効率化および作業者の負担軽減を図っております。

※停電して作業（電線や電柱などの取替工事など）を行う場合に空中で電線を切断および接続するための工事



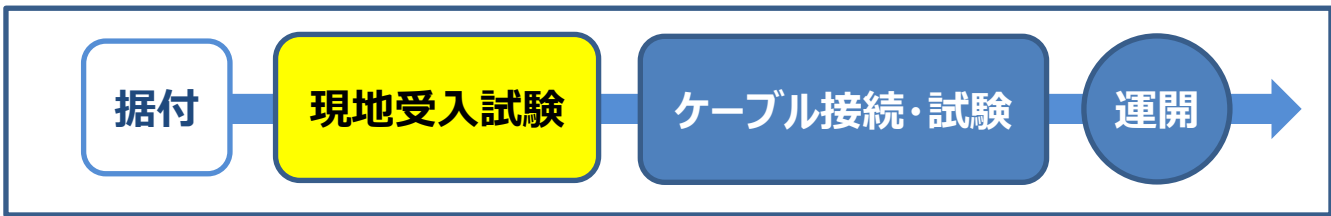
- ◇ 効 率 化：電線被覆剥ぎ取りおよび被覆剥ぎ取り個所の絶縁カバーの取付けが不要。
- ◇ 作業者の負担軽減：作業者の負担となる電線被覆剥ぎ取り作業が不要。

3. 新たな効率化取組について (デジタル型保護リレー-現地受入試験の地元業者活用)

- デジタル型保護リレー※を変電所等へ据え付け後に、製作した大手メーカーの「現地受入試験」を実施してきました。
- 地元業者で「現地受入試験」を実施する技術力および体制が整い、交通費・宿泊費等の低減を図っております。

※落雷等で電力設備に故障が発生した場合に速やかに電力系統から切り離し、停電事故の拡大防止を図る装置

デジタル型保護リレーの据付から運開までの流れ



現地受入試験にかかる費用 (試験期間5日間の場合)

現地受入試験実施箇所	労務費	交通費	宿泊費
製作メーカー	5日 + 出入り2日	遠方からの交通費 (公共交通機関)	6日間
地元業者	5日	近隣の交通費 (車両, 燃料)	なし



デジタル型保護リレー

【北陸電力の効率化事例】

		取組	
体制	効率化のための体制	経営基盤強化委員会	
人件費・委託費等	人件費の削減等	従業員の年収水準の低減	
設備関連費	調達 の 合理化	発注方法の 効率化	共同調達による価格低減
		仕様・設計の 汎用化・標準化	光搬送装置の機器仕様見直し
	工事内容の 見直し	新材料・新工法 の利用	自動電圧調整器の仕様見直し
			鉄塔塗装剤の新規採用による塗装周期延伸
		系統構成設備 の効率化	鉄塔まとめ建替
	設備保全の 効率化	点検周期の延伸 化等の効率化	開閉器点検周期の延伸
			デジタル型保護リレーの定期点検省略
		取替時期の延伸 等の効率化	寿命評価による遮断器の延命化

【北海道電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	経営基盤強化推進委員会	○		
		調達検討委員会	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	給料手当の削減	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	スマートメーターの共同調達	○	
			複数年度一括発注（石狩火力幹線新設工事）	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	新たな高圧線用カバーの仕様見直し	△	・リサイクル可能なカバーを導入済み
			分路リアクトルにおける真空スイッチの採用	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	狭根開き鉄柱の採用	○	
			鉄塔建替基数削減	○	
			変圧器の構内移動工法（油圧式移動装置）の採用	△	・油圧式移動装置の採用実績あり
		系統構成設備の効率化	変電所の統廃合	○	
	設備保全の効率化	点検周期の延伸等 の効率化	275kV連絡用変圧器の電圧調整スイッチ(LTC)の点検周期見直し	△	・LTCの動作回数に応じた状態保全での点検を実施することで点検コストを削減
			取替時期の延伸等の効率化	耐塩コンクリート柱の採用	×
	その他	その他の効率化	配電系統図表示システムの採用	○	

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、－：対象設備・機能が無い場合

【東北電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	調達改革委員会の設置	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	基準賃金引下げ	○		
		退職年金制度見直し	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	集約発注（外部との共同調達）の実施	○	
			VE方式採用	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	系統保護リレーの仕様標準化	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	クランプカバーの形状改良	△	・低風圧アルミ電線の導入に合わせてクランプカバーの形状を改良し、サイズを統合
			送電工事仮設道路での盛土材へのプラスチック製材の活用	○	
		系統構成設備の効率化	山間部横断配電線のルート変更による後年度の伐採費用抑制	○	
	設備保全の効率化	点検周期の延伸化等の効率化	不良懸垂碍子の検出点検周期延伸	○	
		取替時期の延伸等の効率化	変圧器の再利用増加	○	
その他	その他の効率化	配電盤運用保守業務の遠隔化	○		

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、－：対象設備・機能が無い場合

【東京電力パワーグリッドの効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	調達委員会	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	顧客管理に係る定型業務の一部集中化	○		
		支社組織統廃合の検討 等による人員数削減	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	資機材の共同調達	○	
			地中送電ケーブル工事分野における発注方法の工夫	△	・まとめ競争(第28回資料8 P34)
			配電用設備品分野での発注方法見直し	△	・順位配分競争 等(第28回資料8 P34)
		仕様・設計の汎用化・標準化	配電用柱上変圧器の仕様見直しによる低減	△	・至近では、50kVA変圧器の放熱板を廃止
			超狭根開き鉄塔の開発	△	・敷地に制限のある箇所において狭根開き鉄塔を採用
			機材仕様の見直しによる足場ボルトの細径化	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	架空送電線点検方法の効率化	○	
			66kV空気遮断器点検の改善	-	・対象設備なし
			柱上変圧器取替工事の効率化	○	
		系統構成設備の効率化	ダイナミックレイトング活用による設備増強の回避	×	・費用対効果を踏まえ、適用可否を検討する
	設備保全の効率化	点検周期の延伸化等の効率化	電圧調整スイッチ (LTC)吊り上げ点検のインターバル延伸	△	・LTCの動作回数に応じた状態保全での点検を実施することで点検コストを削減
			配電設備のリユース・延命化の拡大	○	
		取替時期の延伸等の効率化	鉄筋コンクリート柱取替評価基準の見直しによる取替対象の厳選	○	
			マンホール内立金物補修・防水装置補修・漏水補修の省略	○	

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、-：対象設備・機能が無い場合

【中部電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	生産性向上検討会の設置	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	バックオフィス業務の集中化など	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	連系設備増強における資機材の共同での競争発注	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	要求仕様の見直しによる調達先候補の複合化 （「複合型補償リアクトル」の仕様緩和）	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	柱上変圧器用耐雷PCの仕様共通化、合理化	-	・対象設備なし
		系統構成設備の効率化	電力需要動向に応じた流通設備の最適化の取り組み	○	
	設備保全の効率化	点検周期の延伸等 の効率化	配電用変電所における変電機器の定期点検内容の見直し	○	
		取替時期の延伸等 の効率化	保護継電装置におけるユニット交換工法の採用	△	・ユニット交換が可能となる装置を2011年度より順次導入

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、-：対象設備・機能が無い場合

【関西電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	コスト構造改革WGの設置	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	採用数の抑制や管理間接業務における集約化	○		
		月例賃金の減額を継続するなど給与等の削減	○		
設備関連費	調達 の 合理化	発注方法の効率化	電力用資機材への共同調達の拡大	○	
			仕様見直しに資する「VE方式」やまとめ発注による価格低減	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	2本継コンクリート柱への仕様変更	×	・費用対効果を踏まえ、適用可否を検討中
			超高圧クラス以上の変圧器等の仕様見直し	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	新規開発の低風圧アルミ電線導入による調達コスト及び工事費用低減	○	
			変圧器における機器構造の簡素化や仕様等の見直しによる製造原価低減	△	・現地耐圧試験、温度上昇試験の合理化を実施
		系統構成設備の効率化	設備利用率等を将来的なニーズなど総合的に評価した上で設備のスリム化	○	
	設備保全の効率化	点検周期の延伸化等の効率化	ガス遮断器の内部点検に状態監視保全を導入し、点検頻度を抑制	○	
			変圧器の点検に状態監視保全を導入し、点検頻度を抑制	○	
			静止型保護継電器について障害実績を評価し、点検周期を延伸	○	
		取替時期の延伸等の効率化	CVケーブルにおいて、損失電流法等の劣化診断も用いた設備取替時期の見極め	○	
			コンクリート柱の取替時期において、高精度巡視データに基づく取替時期の延伸化	○	
変圧器について、フルフールと平均重合度の関係式を用いて設備寿命の見極め			○		

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、－：対象設備・機能が無い場合

【中国電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	経営層で構成する会議体での資機材・役務調達方針等の共有	○		
		送配電カンパニーにおける業務改善等への取組と水平展開	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	事業所の再編	○		
設備関連費	調達の合理化	共同調達の実施	○		
		発注方法の効率化			
		VE方式の採用	○		
		コストオン方式の採用	○		
		仕様・設計の汎用化・標準化	○		
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	無停電作業による鉄塔塗装の実施	×	・活線近接箇所において無停電での塗装を検討中
			安価な鳥害防止具の導入	△	・「間接活線用とりがえし※」を採用 ※当社とメーカーで共同開発したものであり、第60回(2015年度)澁澤賞を受賞
		系統構成設備の効率化	2回線化による区間廃止	-	・2回線化を標準としている
設備保全の効率化	点検周期の延伸等々の効率化	変圧器タップ切換装置の細密点検周期の延伸化	×	・過去の故障履歴や消耗品摩耗量などの分析を行った上で延伸を検討する	
	取替時期の延伸等々の効率化	系統保護装置の取替延伸化	○		

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、-：対象設備・機能が無い場合

【四国電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	経営改革特別委員会の設置	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	配電現場出向用ハンディターミナル(配電HT)の開発・導入による供給申出業務の効率化	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	一括発注・共同調達 (遮断機、スマートメーター、蓄電池など)	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	配電線へのアルミ電線の全面採用	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	架空送電線の電線張替工事における新工法 (部分的な吊金車延線工法)の採用	×	・275kV送電線の張替工事において採用を検討中
		系統構成設備の効率化	空気圧で操作する変電機器を老朽取替に合わせ電動化し、コンプレッサを撤去したことによるメンテナンス費用の削減	○	
	設備保全の効率化	点検周期の延伸等 の効率化	架空送電線の懸垂碍子の点検頻度延伸	○	
			187kV以上のガス遮断器の点検の効率化	○	
		取替時期の延伸等 の効率化	超高圧母線保護リレー装置の部品単位での交換によるコスト低減	△	・ユニット交換が可能となる装置を2011年度より順次導入

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、－：対象設備・機能が無い場合

【九州電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	資機材調達コスト低減への取組体制 (資材調達分科会・調達改革推進委員会の設置等)	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	退職金・年金制度の見直し	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	共同調達・リバースオークション	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	塗料仕様の標準化 (送電設備)	△	・一部の塗料仕様を標準化(第28回資料8 P14)
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	ケーブル張替工法の見直し (送電設備)	×	・詳細を聞き取り、採用の可否を検討する
			アーム補強金物の開発 (配電設備)	△	・同様と思われるアーム補強金物採用済
		系統構成設備の効率化	設備形成の合理化(送電・変電設備)	○	
	設備保全の効率化	点検周期の延伸等 の効率化	定期点検の見直し (定期点検の状態基準保全化等)	○	
			変圧器の更新時期の延伸	×	・撤去変圧器の調査結果等を元に一部延伸を検討中
			送電線の余寿命診断精度向上による最適な改修時期への見直し	○	
		コンクリート柱のひび割れや剥離等の現地補修	×	・費用対効果を踏まえ、適用可否を検討する	
その他	その他の効率化	九電ハイテックへの保全業務委託	○		

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、－：対象設備・機能が無い場合

【沖縄電力の効率化事例】

		取組	取組状況	備考	
体制	効率化のための体制	品質マネジメントシステムの構築	○		
		調達コスト低減に向けた取組み (共同調達、リバースオークション等の利用拡大 等)	○		
人件費・委託費等	人件費の削減等	効率的な組織運営 (業務集中化、組織・事務所の統廃合等)	○		
設備関連費	調達の合理化	発注方法の効率化	共同調達、リバースオークション等の実施	○	
		仕様・設計の汎用化・標準化	72kV遮断器発注における要求仕様の見直し	○	
	工事内容の見直し	新材料・新工法の利用	鉄塔の杭基礎に用いる「いかり材」の見直し	○	
			人孔寸法の見直し(縮小化)	○	
		系統構成設備の効率化	ケーブル接続箇所数の低減	×	・詳細を聞き取り、採用の可否を検討する
	設備保全の効率化	点検周期の延伸化等の効率化	変圧器タップ切換開閉器における点検周期延伸化	△	・LTCの動作回数に応じた状態保全での点検を実施することで点検コストを削減
		取替時期の延伸化等の効率化	高耐食メッキの導入	○	

【凡例】○：同様の取組を実施、△：同様と思われる取組を実施、×：取組を実施していない(別の対策を実施、実施できない、現在検討中などを含む)、-：対象設備・機能が無い場合